

## 行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画意見交換会 実施結果対応表

1	開催日	平成 26 年 2 月 8 日（土曜日）	
2	参加者数	14 名	
3	意見件数	16 件	
4	意見内容		
	意見等の概要	市の考え方	修正
	住みやすく、快適に過ごしやすいまち並みをどこで展開するのか、また協議会はどのような手法で設置するかなど、もう少し踏み込んで記述すべきである。	第 4 章行田らしいまちづくりの推進の考え方（p47）に、モデル地区において、まち並みやにぎわいに関して重点的に取り組み、市内全体のまち並みづくりやにぎわいの創出につなげる記載があり、第 7 章（p85）Step2 及び（p93）において、市民のネットワーク組織の立ち上げに対する行政の支援やまちづくり組織の取り組み・活動支援などについて記載しています。	なし
	モデル地区における具体的施策の実施箇所には優先順位を付けるべきである。	施策箇所につきましては、予算や地域の現状などを総合的に勘案し、来年度以降も地域住民と意見交換を重ねた上で優先順位を設け、施策の展開に努めてまいります。	なし
	歴史を活用した上でこれからの文化を包括したまちづくりを進めていく必要があり、よりポイントを絞った素案で良いのではないか。	来年度以降も地域住民と意見交換を重ね、まちづくりを推進してまいります。	なし
	第 2 章の前提条件の整理において、地域の祭り、民族的な資源をもっと盛り込むべきである。	第 3 章（p48）の祭り・民族行事において、全体のバランスを勘案しつつ、内容を充実させていただきます。	あり
	にぎわいづくりに向けては、スピード感を持たせる為にも、ターゲットや場所を絞り込んでいくべきである。	予算や地域の現状などを総合的に勘案し、来年度以降も地域住民と意見交換を重ねた上、施策の展開に努めてまいります。	なし
	観光客を増やしたいのか、居住者が増えることがよいのかを明確にした方がよい。	第 6 章（p61）において、モデル地区の方針として、暮らしと交流が調和したにぎわいづくりについて記載しており、目標値に向け、市民と来訪者の双方が満足できるにぎわいの創出に努めてまいります。	なし
	内側の取り組みだけでなく、観光収入を含めたにぎわいづくりを考えて欲しい。	第 6 章（p61）において、暮らしと交流が調和したにぎわいづくりについて記述があり、市民と来訪者の双方が満足できるにぎわいの創出に努めてまいります。	なし

<p>現状を踏まえ、シェアハウスや深谷市のミニシアターなど、ポイント的なにぎわいづくりを考えていく必要がある。</p>	<p>ご意見は、貴重なご提案として、今後の施策展開において参考にさせていただきます。</p>	<p>なし</p>
<p>経済産業省・中小企業庁主催のがんばる商店街77選に、県内では秩父市と川越市が選定されている。ワーキンググループだけではなく、商店街や自治会などの協力が必須で、施策・事業の種別ごとに人選し、参加してもらう必要がある。</p>	<p>第7章 Step2：市民のネットワーク組織を立ち上げる（P92）において、行政の基本的役割と各主体との連携体制についての記載がございます。魅力あるまちづくりの実現化に向けて、市民と行政は協働して施策・事業を推進してまいります。</p>	<p>なし</p>
<p>国道125号行田バイパス行田市総合運動公園付近に道の駅をつくり、行田に人を引き込むきっかけづくりが必要である。</p>	<p>ご意見は、貴重なご提案として、今後のまちづくりにおける施策展開において参考とさせていただきます。</p>	<p>なし</p>
<p>まちづくりを推進しているのは人であることから、商店街や若手の出番をつくり、人がやる気になることが重要である。市民主体のまちづくり活動や仕組みづくりを誰が行うのかが必要である。それに伴う、まちづくり協議会の運営体制の方向性を示すべきである。</p>	<p>第7章（p85）Step2及び（p93）において、市民のネットワーク組織の立ち上げに対する行政の支援やまちづくり組織の取り組み・活動支援などについて記載しています。</p>	<p>なし</p>
<p>市民主体のにぎわいづくり、まち並みづくりが大事である。市街地では車がなくても歩いて暮らせ、周辺地域は、中心部で買い物を済ませられるようなまちづくりを目指すべきである。</p>	<p>第7章事業推進に向けたプログラム（p84）において、市民は、まちづくりへの気運を高め、参画意識を醸成し、行政は、市民主体の活動や取り組みを支援することを記載しており、魅力あるまちづくりの実現化に向けて、協働して施策・事業を推進してまいります。</p>	<p>なし</p>
<p>新町通りのアーケードを撤去し、八幡町から市役所まで道を通して、新しいまち並みをつくるのはどうか。にぎわいをつくるには市街地における雇用場所の確保が必要であり、計画に具体的な目標値を示すべきである。</p>	<p>第6章秩父鉄道行田市駅からの新町通り周辺のまち並み軸（p77）及び八幡通り周辺の界わい・まちかど（P89）において、それぞれ具体的施策を記載しています。</p> <p>ご意見につきましては、行政運営に関する貴重なご意見として、今後の施策展開において参考にさせていただきます。</p>	<p>なし</p>
<p>表通りだけではなく、裏通りの魅力も共に創出していく必要がある。</p>	<p>第6章の新店通り周辺の界わい・まちかど（p81）に、裏通りの具体的施策として記載しています。また、施策を展開し、本町通りと新町通りからのつながりを形成したまち並みづくりを図ってまいります。</p>	<p>なし</p>

<p>従来の行政主体によるまちづくりではなく、市民が主体となって活動し、行政はその活動を支援する、という考えでまちづくりに取り組むべきである。</p>	<p>頂いたご意見と同様の考え方が、第7章 事業推進に向けたプログラム (p84) に記載しており、魅力あるまちづくりの実現化に向けて、市民と行政が協働して施策・事業を推進してまいります。</p>	<p>なし</p>
<p>PDCA サイクルによる進行管理に取り組んでほしい。</p>	<p>第7章 PDCA による進行管理 (p105) において、PDCA サイクルによる計画の進行管理について記載しており、点検・評価を行いながら、適宜事業を推進してまいります。</p>	<p>なし</p>